

## 第 8 次大和市総合計画の進行管理に対する意見（案）（第 1 評価部会分）

**個別目標 1 - 1 「心身の健康を維持・増進する」****○めざす成果 1 - 1 - 1 「市民一人ひとりが健康づくりに取り組んでいる」について**

- ・現在、健康普及員による体操教室や講習などでは、延べ参加人数を集計していますが、同じ人が参加していることも想定されます。市の施策により、健康を意識する人がどのくらい増加したのかを捉えるためには、参加者の実人数の把握が必要と考えます。
- ・健康度見える化コーナーは、気軽に健康状態を把握できる機会を提供するというコンセプトであり、健康意識の向上に有効です。測定結果については、経過をグラフ化するなど、視覚的に分かりやすくすることで、より一層、意識の向上につながると考えます。また、設置場所については、商業施設の入り口など、より気軽に測定できる場所を選定することで、普段、健康を意識していない人への啓発も図ることができると考えます。

**○めざす成果 1 - 1 - 2 「心身の健康を維持・増進するための体制が整っている」について**

- ・近年、若年者への結核や梅毒の感染事例が多く確認されるようになってきました。感染症への対応は、県の役割ではありますが、市としても状況を把握し、必要に応じて周知の支援などを行ってください。

## **個別目標 1-3 「高齢者や障がい者への支援を充実する」**

### **〇めざす成果 1-3-1 「高齢者が生き生きと暮らしている」について**

- ・高齢の方が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域包括ケアの実現を図ることは重要と捉えられます。埼玉県和光市や千葉県柏市などは、ケアマネージャーの資質向上や医療・介護連携の実施等、地域包括ケアにおける好事例であることから、取り組みの参考とすることも有効と考えます。
- ・部署を横断するような困りごとを抱えている高齢の方への対応については、事前に部署間での連携や情報共有の体制を構築しておくことで、素早く対処ができると考えます。
- ・シルバー人材センターの登録者にボランティア講師を依頼することで、元気で、知識が豊富な高齢の方が活躍できる機会が創出されるものと考えます。

### **〇めざす成果 1-3-2 「必要な介護サービスの支援が受けられる」について**

- ・介護認定を受けていても、実際に介護サービスを利用していない方もいます。必要な介護サービスを受けることで、症状悪化の防止につながることもあるため、市は、対象者の情報を地域包括支援センターと共有し、高齢の方がしっかりと支援が受けられるような体制を構築していく必要があります。
- ・地域密着型サービスについては、そのニーズを把握するためにも、利用率を確認しておくことが必要です。

### **〇めざす成果 1-3-3 「障がい者が地域の中で自立した生活を送っている」について**

- ・障がい者の地域移行率を高めるためには、障がい別で地域移行の傾向を把握し、分析したうえで施策として推進していくことが重要です。

## **個別目標6-1「いつでも学べる場と機会を充実する」**

### **〇めざす成果6-1-1「生涯学習に取り組む人が増えている」について**

- ・学校の音楽室や美術室などを貸し出す特別教室開放事業は、生涯学習の場を確保するために必要な取り組みと考えます。特別教室開放を有効に活用していくために、地域別で利用ニーズ等を把握するとともに、地域差があった際には、それぞれに応じた利用しやすい環境の整備に努めてください。なお、実施にあたっては、子どもたちの創作活動等の機会が失われることのないよう留意ください。

### **〇めざす成果6-1-2「読書をする人が増えている」について**

- ・大和市の将来都市像である健康創造都市やまをを支える施設として、大和市文化創造拠点シリウス4階に整備された健康都市図書館においては、健康情報を積極的に発信することと合わせ、例えば、姿勢が良くなる椅子を設置するなど、図書館にいただけで健康になれるような仕組みを取り入れることについても検討してください。
- ・市民の読書活動の促進を図るうえでは、例えば、市内を循環する「移動図書館」など、身近な場所で本を借りられる環境を整えることも重要であると考えます。
- ・大和市文化創造拠点シリウス内の図書館に設置されたデジタル地球儀は、読書の導入となるような好奇心を掻き立てる有効な機器であると考えます。こうした機器をうまく活用することで、より一層の読書活動につなげていってください。
- ・図書館の有料宅配サービスについては、利用者へのきめ細かいサービスの一つとして有効であるため、より一層のPRに取り組んでください。
- ・図書館ボランティア養成講座による効果を把握するため、受講者がその後、ボランティア活動に参加したかどうかを捉えられるよう努めてください。

## **個別目標 7-2 「にぎわいのある地域をつくる」**

### **○めざす成果 7-2-1 「商店街や企業が活発に活動している」について**

- ・商店街の活性化を図るうえで、公共施設との連携は有効な手法の一つと考えます。特に、大和市文化創造拠点シリウスは市の新たなシンボルであることから、この施設を商店街活性化の連携拠点として位置付け、様々な可能性を検討してはいかがでしょうか。
- ・連携型チャレンジ事業により開発された地域ブランド商品等を普及していくためには、大和市にゆかりのある有名人に商品を紹介してもらうことや、フィルムコミッションで撮影に来た方々に振る舞うなど、新たなPR方法について検討が必要と考えます。

### **○めざす成果 7-2-2 「市内で働く人が増え、生き生きと働いている」について**

- ・障がい者の雇用の確保を支援することは、健康創造都市やまとの具現化につながる一つの施策であると考えます。大和市ではすでに、障がい者雇用促進支援事業として、障がい者を雇用する企業への支援に取り組んでいますが、平成28年度に発達障害支援法が改正された状況に鑑み、発達障がい者の自立支援の充実に向けた具体的な施策を検討してください。

### **○めざす成果 7-2-3 「地域農産物の消費が安定的に行われている」について**

- ・農業を営む方の高齢化が進むなか、市内の農業を継続していくためには、農家を支援する援農サポーターの役割が重要であると考えます。引き続き、年代を問わず、サポーターの育成に取り組んでください。

### **○めざす成果 7-2-4 「大和」に多くの人を訪れている」について**

- ・フィルムコミッションは、大和市をPRしていく効果的な手法の一つであると考えます。件数が減少していることに関して、その要因を把握しつつも引き続き、積極的な誘致に取り組んでください。